
 〈書 評〉

「義 足」 改訂第2版

岡山大学教授 児玉 俊夫 監修

岡山大学講師 武智 秀夫, 明石 謙 著

大 川 嗣 雄

武智・明石両氏の共著になる「義足」が、版を新たにして出版された。第1版が出版されてから4年を経過したとのことである。第1版が果たした役割はここにのべるまでもないが、日本において系統的にしかも実際に即して書かれた義足の最初の本であったといえよう。したがってこの本によって医師、製作者、PTの多くが目を開かれたに違いない。

さて、その後の4年間に義肢装具に関する関心は高まり、各地での義肢装具研究会が開かれ、多くの人々が集まるようになった。また、学会においてもかなりの演題が発表され、工学者等とのチーム・ワークもとれるようになってきた。しかし、リハ医学会の義肢装具委員会の活発な活動の大半が、現状の問題の整理に費されているのも事実であり、義足1つをとっても早急に解決しなければならないことが山積している。

武智・明石両氏はこの4年間、術直後義足装着法、骨格義足、遊脚期調節等の実践的な面でわが国におけるリーダーとして活発な活動をされてきたばかりでなく、義肢装具委員会の委員として、行政的な面にも精

力的な活躍をしてこられた。

このような実績の上に、第2版が装いも新たに出版されたことはまことに喜ばしい。

さて、第2版を読んでみて感ずることは、第1版に比べて、日本の現状に理解が示されているように思われる。この点は著者らも序文の中で、現在わが国で用いられている部品、方法を列挙するよう心がけたと述べている通りである。

つぎに、第2版では下腿義足が充実した内容になっていることに気づく。大腿義足については多くの文献で詳細な説明があるが、下腿義足の良書をみない。下腿義足は日常もっとも多く扱わねばならない義足であり、最近、各種の型が考案され、めざましい進歩をとげている。これらを系統的に整理し、1つの本の中にまとめている文献は私の知る限りではなかったように思われる。さらに、下腿義足の歩行分析は日常安易に取り扱われがちな問題で、この章の価値は高い。

最近の義足の進歩としてあげられるものに、骨格義足、術直後義足装着法がある。これらの問題について

も、第2版の中で手際良くまとめられており、初学者にとって適切な手引きになっているばかりでなく、第一線でこれらの問題を深めていこうとする者にとっても示唆を与えてくれよう。この点では、すでに述べたごとく、両氏が日頃蓄積されている大きな成果があるからに他ならない。

このようにみえてくると、第2版も第1版と同様に、啓蒙的な意味で果す役割が大きいばかりでなく、今後の義足の発展への一示標ともなりうるのではなからうか。

このような本をテキストブックにして、医師あるいは医学生への教育がなされ、製作者、理学療法士等も日常座右において利用するような日がきた時に、わが国の義足も本当に患者のものになるのではなからうか。

最後に注文をつけさせていただきたい点としては、巻末の引用文献ばかりでなく、日本語で書かれた参考文献も付記してもらえたらと感じた。

(横浜市立大学講師)

A 5・頁328・図208・写真102

¥3,800・¥140

医学書院刊